

教科	社会科	学年	1年	標準授業時間数	105時間 (週 3時間)
----	-----	----	----	---------	---------------

目 標	教科目標	広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的・平和的な国家や社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
	具体目標 (到達目標)	<p>地理的分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本や世界の地理的事象に対する関心を高める。 ○広い視野に立って国土の地域的特色を考察し理解する。 ○地理的な見方や考え方の基礎を培う。 ○我が国の国土に対する認識を養う。 <p>歴史的分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本や世界の歴史的事象に対する関心を高める。 ○我が国の歴史の概要と時代の特徴を世界の歴史を背景に理解する。 ○我が国の文化と伝統の特徴を広い視野に立って考察する力を養う。 ○我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を養う。

評 価	観	社会事象への関心・意欲・態度	25%	我が国の地理・歴史的事象に関心を持ち、それらを意欲的に追究し、広い視野から、我が国の地理・歴史的特色を認識しようとする。
	点	社会的な思考・判断	25%	地理・歴史的事象を多面的・多角的に考察し、各地域の人々の生活や文化の特色を把握して、公正に判断しようとする。
		資料活用技能・表現	25%	地図・統計・史料など各地域に関する様々な資料を、適切に取捨選択し活用するとともに、各種レポートなどを作成し、発表・討論にも積極的に参加しようとする。
		社会的事象についての知識・理解	25%	世界の地理や歴史を大観し、我が国の主な地理・歴史的事象と世界との結びつきについて、比較関連させながら理解し、知識を整理しようとしている。
材 料	定期テスト・小テスト・各種レポート・ノート整理・授業態度・自己評価表			
方 法	単元(教科書の章や節など)が終わるごとに、上記の材料を使い、個々の理解がどこまで深まっているかを確認しつつ、評価をおこなう。			

学 習 方 法	使用教材	教科書(地理・歴史: 東京書籍)・副教材・プリント		
	学習形態	<ul style="list-style-type: none"> ○知識の伝達や発表の時には一斉授業(全員が前をむいて説明を聞く)とする。(課題を考えるときは、少人数のグループで行うときもある。) ○思考・判断を評価するときや作業の際にはグループでの調べ学習もある。 ○調査活動では図書室やコンピュータ室を使用することもある。 		
	学校の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本を確実に身につけさせるため学習内容を厳選し、単元ごとに小テストかレポート作成等を行い、目標に対する到達度をはかっていく。 ○生徒一人一人の興味・関心に応じるため、調べ学習の時間を確保して、その能力の伸長をはかる。 ○繰り返して指導を行うことで、「つまずき」を克服したり、課題にじっくり取り組ませたりしてきめ細かな指導を行う。 ○学ぶことの楽しさを体験させ、学習に対する意欲を高める工夫をする。(意欲的な発表・発言ができるような学習規律をつくる) ○自分の学習の目標を定め、毎授業時間ごとに授業の振り返りを行う。 ○社会的事象に関心を持たせるために新聞も活用する。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○単元が終わるごとに「まとめ」をつくり、自分で知識を整理する。 ○事前に教科書・副教材などを読み、授業で質問したい、みんなに考えてもらいたい事項をはっきりさせておく。 ○提出物は締め切り前に提出できるよう準備を早めに行う。 ○忘れ物をしないよう関連教材は必ずひとまとめにし、管理する。 ○重要語句や年号は繰り返し、書きながら覚える。 			

年間授業計画

月	学 習 の 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
4	第1編世界と日本の地域構成 第1章地球のすがた 第2章世界のすがたとさまざまな地域 1 地球の姿を見てみよう 2 地球上の位置 3 経度・標準時・時差 4 地球儀と地図のちがいを知ろう	1 2	○基本的な地図の読み方や資料の探し方を教科書や地図帳を使うことで覚える。 ○基本的な地名（6大陸・3大洋）とその位置や時差計算ができる。
5	第3章日本のすがたとさまざまな地域 1 日本の位置を調べよう 2 日本の広さを調べよう 3 日本をいくつかの地域に分けよう 4 都道府県を確かめてみよう 5 いろいろな視点から都道府県をながめよう	1 6	○絶対的や相対的な位置を使って、日本の位置を説明できる。 ○都道府県や都道府県庁所在地の位置と名前がわかる。 ○大まかな日本の形状を押さえた略地図がかけるようになる。 ○身近な地域の調査で使用される「地形図」について、その読み方（方位・縮尺・地図記号）を理解する。
6	6 日本の略地図をえがいてみよう		○身近な地域としての「広島県」の調べ学習について、調査から得られたデータを適切な方法で表現できる。 ○世界の国々の様子を調べる中で、資料などを的確に読みとり、原因と結果・その影響などについてまとめることができる。
7	第2編地域の規模に応じた調査 第1章身近な地域の調査 第2章都道府県の調査	9	
9	1 さまざまな地域からなる岩手県 2 地域の中心的な役割をもつ福岡県 3 世界と日本を結ぶ東京都	1 5	
10	第1章 歴史の流れ 第2章 古代までの日本 1 文明のおこりと日本の成り立ち 1 人類の出現と日本列島 2 文明の発生と東アジア世界 3 縄文文化と弥生文化	1 0	○日本の歴史の大まかな流れを知り、時代区分や年代の表し方などを理解している。 ○今に残る文化財などから当時の人々の生活ぶりを推理したり、その広がりや過程を考察できる。 ○人類が出現し、やがて世界の古代文明がおこり、日本列島にも縄文、弥生文化が生まれたことを理解する。
11	4 国々の誕生と古墳文化 5 大王の時代 2 古代国家の歩みと東アジア世界 1 大化の改新への道のり 2 律令国家の成立 3 奈良時代の人々の暮らし 4 国際的な文化の開花 5 平安京と摂関政治	1 1	○古代における日本が、東アジアと緊密な関係をもちながら、律令体制を整えていった過程を理解する。 ○国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことに気づく。
12	6 文化の国風化 第3章 中世の日本 1 武士の台頭と鎌倉幕府 1 武士の成長 2 武家政権の成立 3 武士と民衆の動き 4 鎌倉幕府の宗教と文化	7	○鎌倉幕府から室町幕府を経て戦国時代が始まるまでの武家社会の流れを、当時のアジアの動向やわが国の外交と関連づけて理解する。 ○農業などの諸産業が発達することで、畿内を中心とした都市や農村が発展するとともに、自治的な仕組みが生まれたことに気付く。
1	2 東アジアとのかかわりと社会の変動 1 モンゴルの襲来と日本 2 南北朝の動乱と東アジアの変動 3 室町幕府と経済の成長 4 民衆の成長と戦国大名 5 室町文化とその広がり	9	○武士や民衆の活力を背景にして生み出された鎌倉文化と室町文化の特色について考える。 ○東アジア世界とのかかわりをモンゴルの襲来、日明貿易、琉球の国際的役割を通して理解し、そのかかわりが日本の歴史に及ぼした影響を考える。
2	第4章 近世の日本 1 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 1 ヨーロッパ人の世界進出 2 ヨーロッパ人との出会い 3 織田信長・豊臣秀吉による統一事業 4 兵農分離と朝鮮侵略 5 桃山文化	9	○織豊政権や江戸幕府の統一事業を通して新しい安定した社会が生まれ、その社会が長く続いたことを理解する。 ○東南アジアへの日本人の渡航やヨーロッパ文化と出会いなど対外的な関係が限定されて行った過程がわかる。
3	2 江戸幕府の成立と鎖国 1 江戸幕府の成立と支配のしくみ 2 さまざまな身分 3 貿易の振興から鎖国へ 4 鎖国下の対外関係	7	○社会や経済のしくみの変化から行き詰まっていく原因を考える。 ○鎖国下の貿易、朝鮮との交流や琉球の役割、アイヌの人々の生活に関心を持ち、鎖国下の対外関係を理解する。
	合計時間数	105	

